



KIDSの概要説明

KIDS中長期ビジョン
「明日の仲間へ、響きあう仲間と共に」

2005年度活動方針
「見える化」

2005年

KIDS キーワード (KIDSにおけるプロジェクト企画)

【きっかけ作り】

- 「何か人の役に立つことをしてみたい」と思っても、そのきっかけが掴めない

【やれば出来る、分かる、そして次のステップへ】

- 「はじめてボランティアに参加したが、子供たちに教えられることが多かった」
- 「ボランティアは、ちょっと構えてしまうことが多かったが、気軽に参加できることが分かった」
- 「また、ぜひ他のボランティアにも参加してみたい」

【コラボレーション】

- 外部団体との密接な協力がなければ、実現しなかった。

【レゾナント（心の響き合い）から飛躍の仕組み作りへ】

- 「ボランティアの基本は、心と心の繋がりです」
- 「まだまだ、ボランティアに対する心理的抵抗感がある」
- 企画側も、より多くの人々が「参加してみようかな」と思えるプログラムを提供し、身近なところから、参加者を増やしていく地道な努力が必要

出典：「KIDS心のレゾナント・シンポジウム レゾナント・ハンドブック」 寄稿文より抜粋

1. KIDSとは～これまでの歩み
2. KIDSの個別活動紹介
3. これからの10年に向けて

1. KIDSとは～これまでの歩み
2. KIDSの個別活動紹介
3. これからの10年に向けて



KIDSのロゴは、こどもの“笑顔”



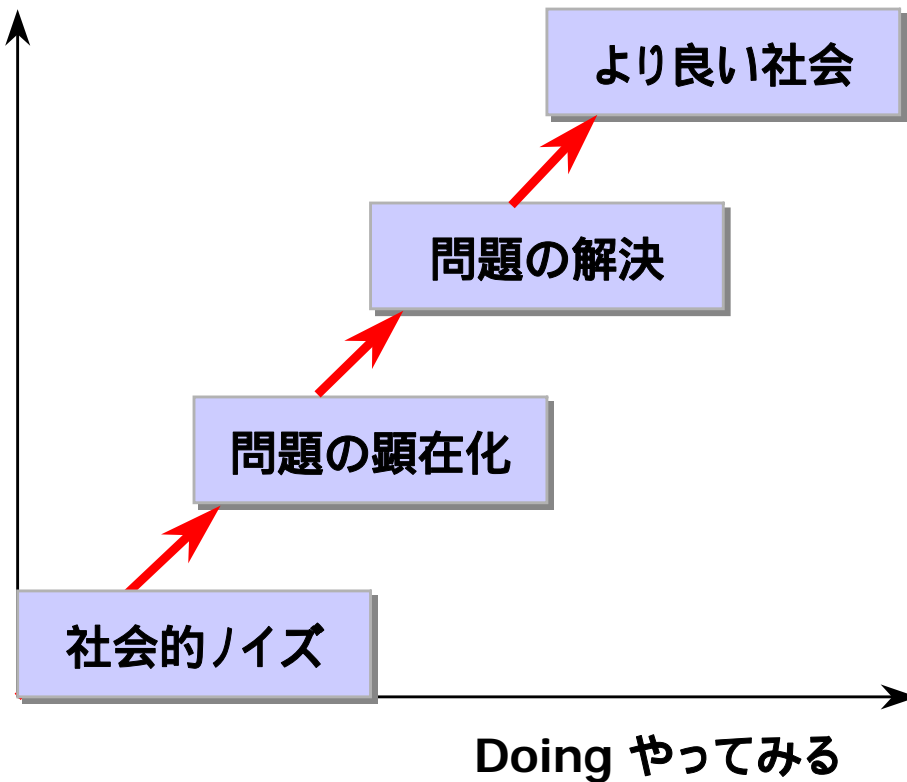
KIDS創設者
リード・メジャース

“Knowing Is Doing Something”
「やってみれば、わかる」の理念の下、
子ども達へのさまざまな
社会教育活動を行う
ボランティア・コーディネート団体(*)

(*) 1992年、「日本の施設は閉鎖的過ぎる」という
リード・メジャースからの問題提起により、日米欧
の有志が立ち上げ

KIDSの理念 (フィロソフィー)

Knowing
わかる





KIDSの活動目標と活動形態

KIDSの活動目標

- 子どもたちへの継続的な社会教育の奨励
- 市民一人ひとりの社会貢献意識の高揚
- 国籍、企業、老若男女、そして障がいの有無を超えた共存社会の提案



楽しい
やりがい
できる



KIDSの活動形態

「プロジェクト活動」

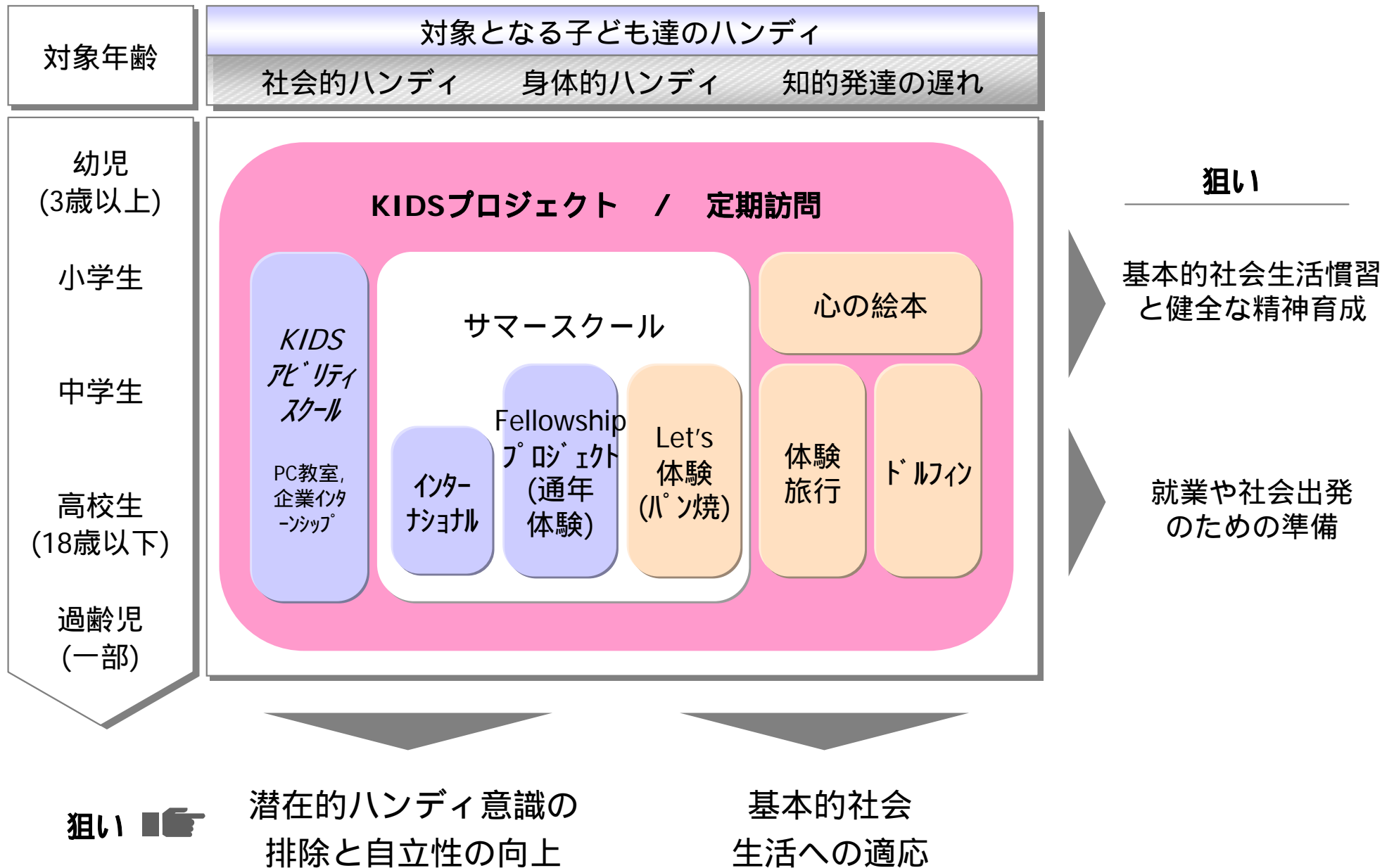
子どもたちとボランティアの
出会いの場の創造



「定期施設・団体訪問活動」

子どもたちとボランティアと
の継続的交流の場

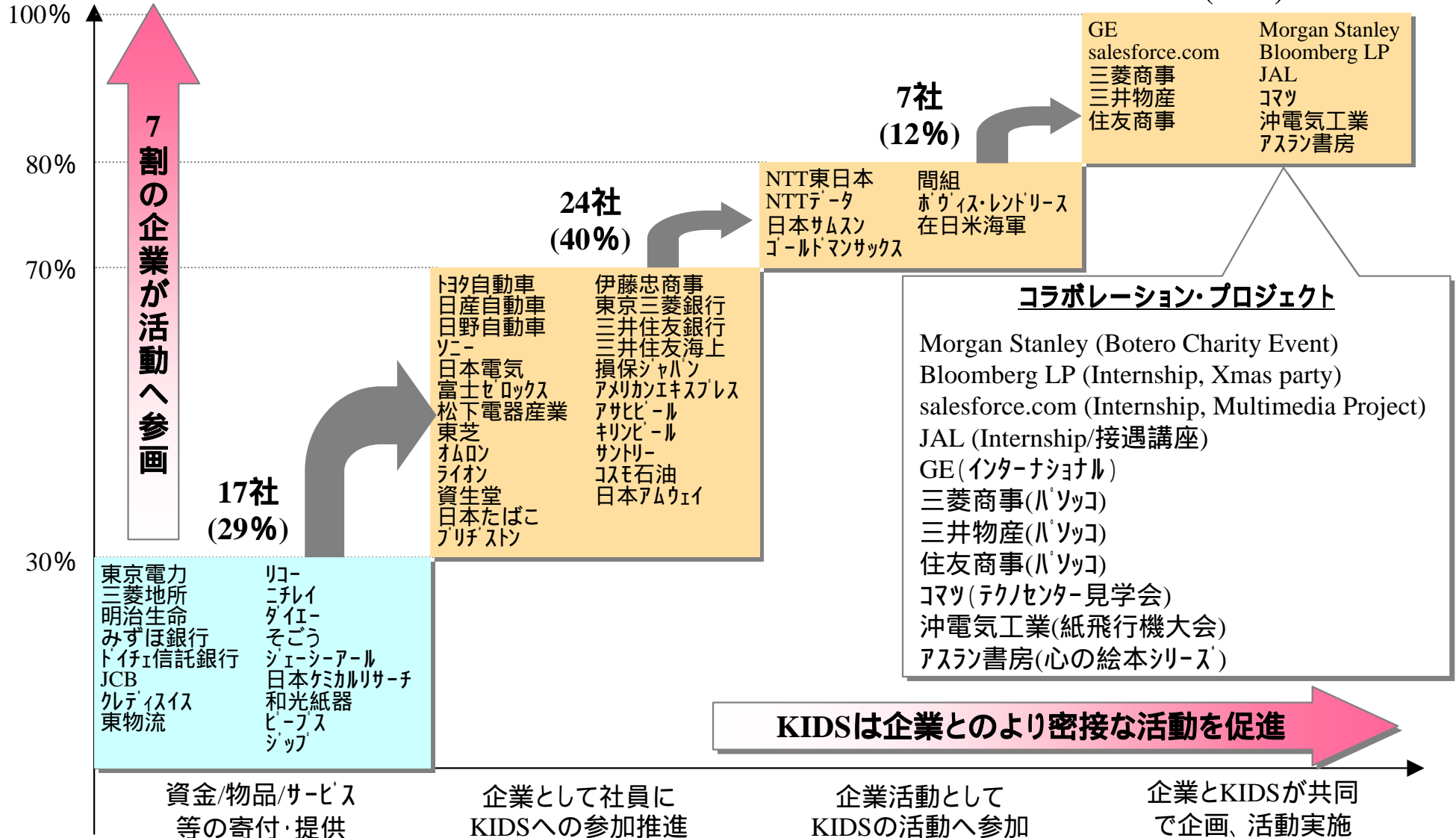
KIDS活動ポートフォリオ(例示)





KIDSと企業とのコラボレーション形態

コラボレーション
形態の内訳



KIDSと企業とのコラボレーション形態

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
キッズプロジェクト	第1回：子ども120名 ボランティア200名	第2回：子ども220名 ボランティア330名	第3回：子ども470名 ボランティア7500名	第4回：子ども470名 ボランティア500名	第5回：子ども500名 ボランティア600名 施設集合コース設置	第6回：子ども400名 ボランティア550名 施設集合コース拡大	第7回：子ども400名 ボランティア650名 在宅障害児参加呼びかけ	第8回：子ども368名 ボランティア625名 在宅障害児募集枠の拡大。継続性重視	第9回：子ども479名 ボランティア803名 事前・事後交流会の実施。継続性重視	第10回：子ども358名 ボランティア556名 継続性重視 身体/知的障害の子どものみ募集	第11回：子ども317名 ボランティア458名 継続性重視 重度障害の子ども枠拡大	第12回：子ども400名 ボランティア580名 継続性重視 難病の子ども枠拡大	第13回：子ども276名 ボランティア485名 継続性重視 重度障害・難病の子ども重視
定期施設訪問	施設へ訪問開始	定期訪問開始（北区：星美ホーム）	定期訪問の本格的実施	施設別個別プロジェクト開始	施設訪問強化 第1回紙飛行機大会	施設への定期訪問9箇所に拡大 第2回紙飛行機を飛ばそう（沖電気）	関東近辺9施設に訪問 継続交流活動 コマツプロジェクト実施	関東近辺9施設に訪問 継続交流活動 コマツプロジェクト実施	関東近辺9施設に訪問 継続交流活動 コマツプロジェクト実施	関東近辺9施設に訪問 継続交流活動 施設定期訪問交流会実施	定期訪問先の追加（あゆみ学園） 米軍基地訪問 定期訪問施設交流会実施	PCスクール実施 米軍基地訪問 定期訪問交流会実施	PCスクール実施 ミTDL 定期訪問リグ-交流・メルガ
他プロジェクト		第1回Smiling Faces 日米テイスニラント同日開催（高校生3名をLAへ派遣）	日米テイスニラント同日開催（高校生3名をLAへ派遣）	第2回Smiling Faces フィリピン海外視察（ストリートレン）	第1回Int'lプロジェクト：子ども6名渡米 第1回L.A.プロジェクト：子ども200名 ボランティア100名	第2回Int'lプロジェクト：子ども5名渡米 第2回L.A.プロジェクト：子ども150名 ボランティア50名	第3回Int'lプロジェクト：子ども4名渡米 第3回L.A.プロジェクト：子ども60名 ボランティア10名 植林プロジェクト開始（富士山）	第4回Int'lプロジェクト：子ども6名渡米（異文化交流 米国企業訪問 植林プロジェクト（モコル植林実施） 第1回サマースクール実施（大島）	植林プロジェクト（富士山，箱根植樹） 第2回サマースクール実施（群馬県）	第5回Int'lプロジェクト（GE協賛）：子ども6名渡米（米 国福祉施設訪問Give kids the world） 高校生ボランティア支援プロジェクト	第6回Int'lプロジェクト（GE協賛）：子ども9名渡米（米 国福祉施設訪問Give kids the world） 高校生ボランティア支援プロジェクト	第7回Int'lプロジェクト：子ども9名渡米（米 国福祉施設訪問Give kids the world） 高校生ボランティア支援プロジェクト	第8回Int'lプロジェクト：子ども6名渡米（米 国福祉施設訪問Give kids the world） 高校生自立支援プロジェクト（Bloomberg/SF.com/JAL） 第6回サマースクール実施（県立朝霧野外）
事務局	KIDS設立	Save The Children Japan と協力開始 ファントレイズイベント実施（日本航空体育館）	会員登録制の導入 ファントレイズイベント実施（日本航空体育館）	KIDSフォーラム発行開始 手話講座開始 神戸震災の子ども達支援	KIDSホームページ開設 独立事務書準備	NPO化検討開始 他団体重油回収作業ボランティア実施 との交流活性化	NPO化準備 定款作成 事務所準備 ファントレイズイベント（葛西臨海公園ウォークリ）	第1回総会 NPO正式登録 事務所設置 ファントレイズイベント（葛西臨海公園ウォークリ）	第2回総会 ドルフィンプロジェクト実施 昭和記念公園ウォークリ 第1回パソコンクラブ実施（PC）	第3回総会 事務所移転 児童養護施設PCサークル 第2回パソコンクラブ実施	第4回総会 児童養護施設駅伝マラソン大会 ボランティア支援 第3回パソコンクラブ実施	第5回総会 児童養護施設駅伝マラソン大会 ボランティア支援 パソコンクラブ継続フォー	第6回総会 中長期ビジョン制定 心のレジナントプロジェクト120名 パソコンクラブ継続フォー

1. KIDSとは～これまでの歩み
- 2. KIDSの個別活動紹介**
3. これからの10年に向けて

- 開催日時: 2004年6月4日(金)
- 参加者数: 子ども:276名、ボランティア:485名、付添い子ども:49名、付添い大人:174名
スタッフ:97名。(総勢1,081名)
- スローガン: 「いっぱいの笑顔で、素適な思い出を!!」
- 狙い: 障害をもった子ども達とボランティアの継続的交流を目指すきっかけ作り。
- 主な活動内容
 - 身体的または知的障害を持った子どもだけを参加対象とした。
 - ボランティア交流会の実施
 - 付添い者がいない子ども達とボランティアだけの「ひとり立ちグループ」を設定
 - 広報活動を通じてボランティア活動を社会へアピールできた。

活動の効果

新たな多くの子どもたちとボランティアに出会いの場を提供
ボランティアへの積極的な働きかけにより、その後の継続ボランティアが増加
子どもたちに自立心や社会性を養う機会を提供することができた

- 開催日： 2004年7月29日～8月1日 高校生リーダー研修会：2004年6月12日
事前交流会：2004年6月26日 事後交流会：2004年9月11日
- 開催場所： 県立朝霧野外活動センター
- 参加者数： 子ども：48名、ボランティア：36名 合計：84名
- 狙い： 子どもたちとボランティアが自然の中で共同生活を行うことで、子どもたちの社会性・自立性・協調性を育成する。
- 主な活動内容
 - 参加募集枠の多様化(自立を目指す身体的ハンディを持つ子ども達を前年同様募集)
 - 大自然の中での共同生活(飯盒炊飯、ウォークラリー、自然観察、キャンプファイヤー等)
 - 事前・事後交流会、高校生スタッフ(大人スタッフ同等に扱う)研修会の開催

活動の効果

障害児と健常児に何の壁もないことを参加者全員が理解できた
 子どもたちの社会性・自主性・協調性の育成
 参加スタッフ間の信頼関係の強化

- 開催日時: 2004年10月2日～3日(一泊二日) 事前交流会:2004年9月4日
- 開催場所: 栃木県那須地区 宿泊先:貸し別荘「泉苑」
- 参加者数: 子ども:15名、ボランティア:32名
- 狙い: 障害児の将来の社会的自立(就労)につながる一つのきっかけとして、就職の実例のあるパン作りの体験の場を提供する。
- 主な活動内容
 - 知的・身体的な障害を持った子ども(小学生～高校生)が、親元を離れ、ボランティアスタッフと一緒に1泊2日の旅行をする。
 - 旅行の中で、牧場での酪農体験、宿泊先でのバーベキュー、音楽会を実施した。

活動の効果

親元から離れた旅行体験を通して、自立性を伸ばせた
 酪農体験やさまざまな体験を通して、社会性を養えた
 ボランティア初心者も「やってみればわかる」という精神を体得できた。

- 日時： 通年
- 参加者数： 対象となる子ども約300名、延べ参加ボランティア約1,500名
- 狙い： 子どもたちとボランティアの継続的交流を通して、子どもたちに対する継続的社会教育を実現する
- 主な試み：
 - 定期訪問先は、現在 7施設。毎月1～2回ずつ定期的に訪問を実施した。
- 課題
 - 一部の学園への定期訪問の規模がかなり縮小
従来のボランティア募集の方法以外に、地域に特化したメディアの開拓などが今後の課題
 - 定期訪問リーダーの育成も必要

活動の効果

子どもたちとボランティアとの継続的な活動の定着
 各種プロジェクトと定期訪問との連携強化
 企業とのコラボレーション活性化

実施日	施設所在地	施設区分	集合場所
毎月第4土曜日	埼玉県羽生市	児童養護施設	東武伊勢崎線「羽生」駅
毎月第1・3日曜日	東京都渋谷区	知的障害児施設	地下鉄日比谷線「広尾」駅
毎月第2土曜日	東京都多摩市	知的障害児施設	京王線「聖蹟桜ヶ丘」駅
毎月第2日曜日	横浜市	母子生活支援施設	JR根岸線「石川町」駅
毎月第4日曜日	東京都荒川区	母子生活支援施設	地下鉄千代田線「町屋」駅
不定期	茨城県下館市	児童養護施設	施設
毎月第2土曜日	東京都青梅市	児童養護施設	JR青梅線「小作」駅
不定期	横浜市	母子生活支援施設	京浜急行「弘明寺」駅

- 開催日時: 2004年9月20日～2005年2月5日(うち渡米期間2004年12月17日～26日)
- 主催: KIDS/GEジャパン株式会社
- 場所: Give Kids The World (アメリカ・フロリダ州オーランド)
- 参加者数: 高校生:6名、スタッフ:12名(うち渡米スタッフ5名)
- 狙い: 高校生が直接心のこもった奉仕活動をすることで、難病の子どもたちへ生きる力を注ぎ込み、同時に自分たちは生きることの大切さ、やりがい、生きがいを認識させる。
- 主な活動内容
 - 3ヶ月の準備期間中、毎週末の英会話レッスン及び文化交流発表の練習
 - 横須賀米軍基地訪問
 - GE elfunのボランティアの方々との交流イベント
 - Give Kids the Worldで次のことを実施した。
 - 朝食のサーブその他、GKTWの子どもたちへの奉仕活動(午前中)
 - 歌/よさこいソーラン節/折り紙/習字等のパフォーマンス、日本文化紹介(夜)
 - GE elfun orlando chapter会長であるRon Walker氏の自宅訪問、ご夫妻及び現地の方々と交流

活動の効果

奉仕活動を通して、思いやりの心の習得

日本文化の再認識、アメリカ文化の体験

英語力の向上 と集団の中でチームワークを作るための精神的な成長

■ 主催: KIDS / ブルームバーグL.P社、セールスフォースドットコム社、日本航空.

■ 活動日時、場所、参加者数:

7/26 ~ 7/30(平日)	セールスフォースドットコム社(IT、恵比寿)	初回	男子高校生:2名
8/2 ~ 8/20(平日)	ブルームバーグLP社(金融情報、丸の内)	第2回	女子高校生:3名
9/11(土曜)	JAL接遇講座(航空運送、羽田空港)	初回	中高生:25名参加

■ スタッフ数: KIDSスタッフ:5名

■ 狙い: 児童養護施設等に在住の高校生(一部活動に中学生も参加)、施設を卒業した18歳以上の学生や未就学者を対象に、就業体験の機会、および将来の自立、仕事やキャリア形成について考えるきっかけを提供する。

■ 主な活動内容

- オフィス内での一般事務、サポート業務に加え、営業外回りの同行などを体験
- インターンシッププログラムで学んだ研修成果や働くことの意義についてプレゼンテーション
- 社会に巣立つ準備としてマナーの基礎の習得

活動の効果

昨年のブルームバーグに加え、セールスフォースドットコム、JALに新たに協力頂き、子どもたちの体験の場が広がった。高校生達は1週間または3週間を無遅刻無欠勤で無事インターンシッププログラムを修了。

学校生活やアルバイトでは経験できない、職務責任の重さや厳しさを体験し、働くことの意味を考えることが出来た。

当初は大変苦勞をしたが、多くの職場の人々とコミュニケーションが出来るようになった。

素晴らしい人々との出会いを通じて、各自の将来について真剣に考える機会を得たこと。



KIDS心のレゾナントシンポジウム (活動報告)

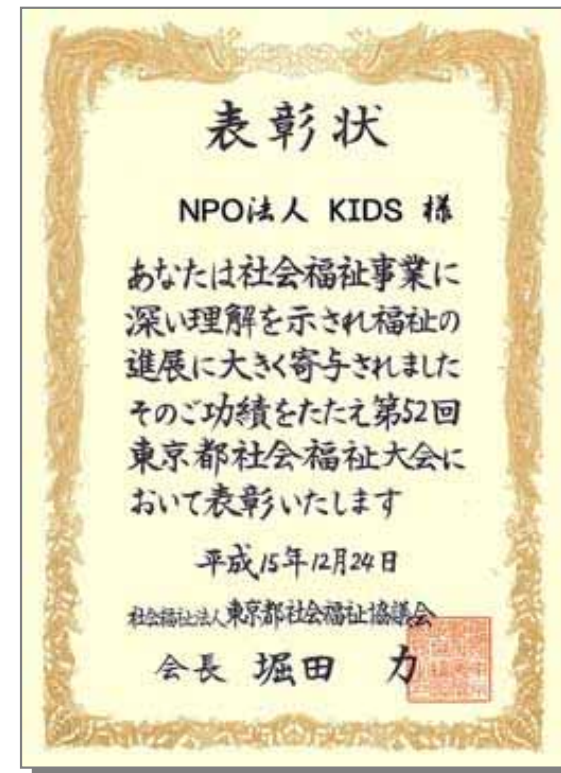
- 主催: KIDS
- 後援: 東京都社会福祉協議会 さわやか福祉財団、東京青年会議所他
- 活動日時: 2004年11月7日(日)
- 場所: 独立行政法人国立博物館 東京国立博物館 平成館 大講堂
- 参加者数: 一般:97名 KIDSスタッフ:23名
- 狙い: さわやか福祉財団 理事長 堀田力氏の基調講演やパネルディスカッションにより、企業の社会貢献活動をさらに発展させるための方法論や、今求められているボランティア機会とは、といった論点を、ハンディをかかえる子どもたちの施設の視点や事例を見ながら議論を行う。
- 主な活動内容
 - 基調講演 さわやか福祉財団 堀田力理事長
 - パネルディスカッション 施設・企業・行政・メディア・NPOからのパネラー
 - 高校生発表 インターン、インターナショナル参加高校生/OG

活動の効果

企業、施設、NPO、行政、そしてボランティア間のコラボレーションの論議を行えた。
社会貢献活動の促進に繋がるボランティアハンドブックを作成し、配布できた。



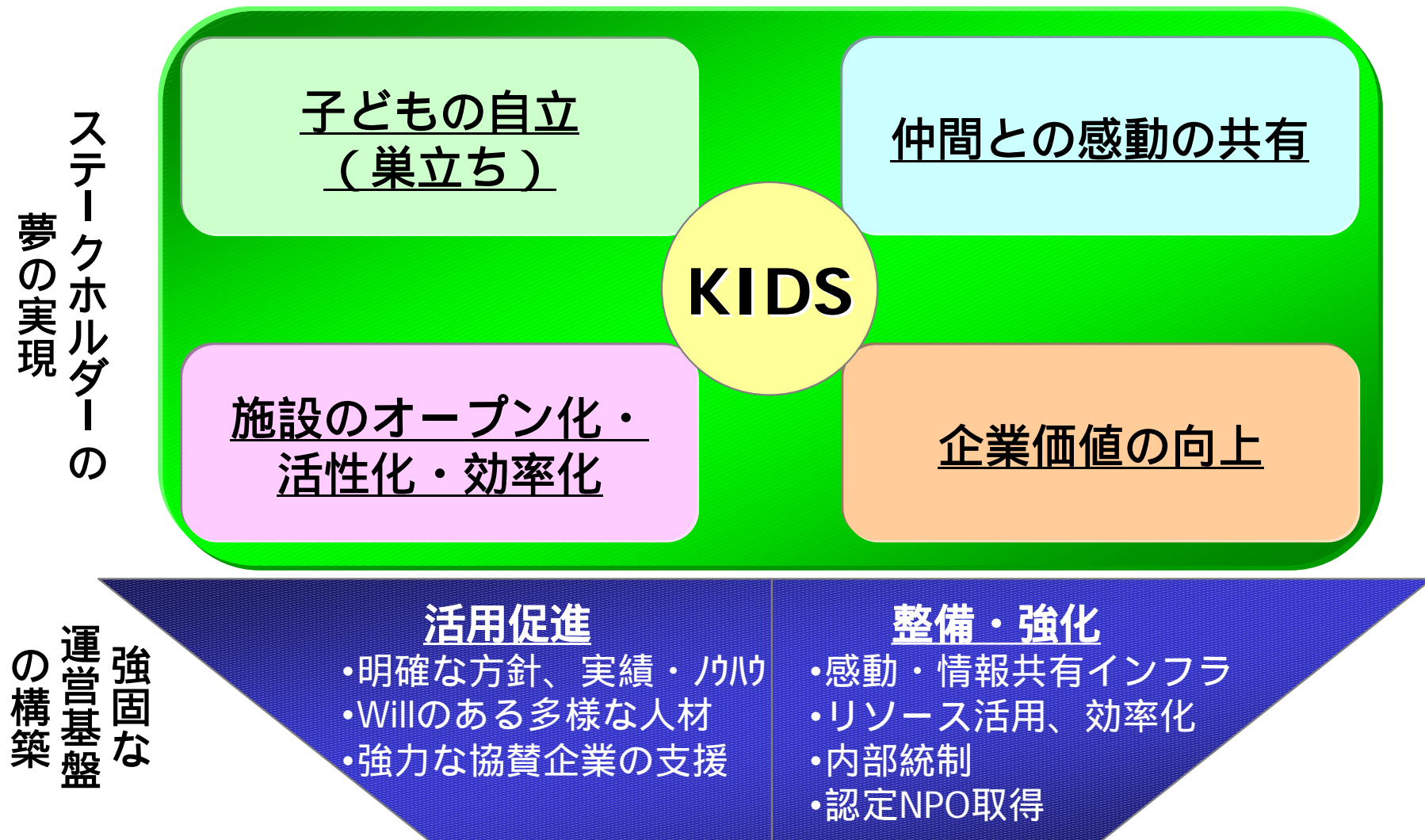
NPOアワード特別賞
2003年9月 東京青年会議所



東京都社会福祉協議会 会長賞
2003年12月 東京都社会福祉協議会

1. KIDSとは～これまでの歩み
2. KIDSの個別活動紹介
3. **これからの10年に向けて**

KIDSは、やがて社会の一員として巣立つ子ども達を、価値観・目的意識を一にする仲間と共に支援します。また、多くの仲間の夢の実現に向け、その土台となる揺ぎ無い運営基盤の構築を目指します。



	置かれている状況	求めているもの
子ども達	自立の難しさ <ul style="list-style-type: none"> ・(心)愛情不足、友人ができない ・(能力)教育のチャンスがない ・(社会)偏見・差別、閉鎖性 	生活力、自立できる環境 <ul style="list-style-type: none"> ・(心)触れ合い、親密な人間関係 ・(能力)教育・技能習得のチャンス ・(社会)理解者、受容れる社会
施設 (親の会等)	リソース不足(人手、資金) <ul style="list-style-type: none"> ・施設間競争/ケア充実、障害範囲拡大 ・職員モチベーション維持の困難さ ・閉鎖性 社会とのズレ、協力を得難い 	オープン化、活性化、効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・人手、職員・親の負荷軽減、効率化 ・職員自己啓発(広い視野、ITスキル) ・社会との係わり、コミュニケーション
人々 ボランティア	知らない・分からない・続かない 整理情報・伝達手段の不足 偏見・差別、きっかけ見付らない、感動共有できず、継続性を維持出来ない	感動・共感、共有の仕組み・場 <ul style="list-style-type: none"> ・整理された情報、伝達手段 ・仲間、感動の交換の場 ・やりがいの発見
企業	逆風の中での社会貢献使命 <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい財政、経済状況 ・社会貢献使命、社員の人材育成 ・情報、パートナー、ノウハウ不足 	企業価値の最大化 <ul style="list-style-type: none"> ・実績・効果(企業イメージの向上) ・情報、ノウハウ、信頼出来るパートナー ・社員教育
その他	少子高齢化 / 就職難 / 国際化 / 犯罪の低年齢化 / IT・インターネットの普及 / 会計の透明性	高齢者・外国人の活躍の場 / 英語力・ITスキル / インテグリティ(行動規範) / セキュリティ



KIDSのできる事・できていない事

	できる事(強み)	できていない事(弱み)
KIDS自身	<ul style="list-style-type: none"> •明確な方針 •12年実績信頼、企業・施設とのパイプ •多様性・オープンな集団 •低コストオペレーション(Allボラ、バーチャル) •活動の多様化、規模的拡大、質向上 	<ul style="list-style-type: none"> •子ども達の状況把握 •情報・感動の共有(広報、口コミ) •リーダー育成 •内部統制(会計・運営ルール) •活動の成果、質の評価基準
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> •多様で活力のある人材 モチベーションが高い 専門スキルがある (IT/英語/プロジェクト実行力) 多様性(年齢、職種、地域) 	<ul style="list-style-type: none"> •長期コミットできる環境整備 やる気とライフサイクルとの整合 •KIDS理念、ビジョンの共有 •外国人ボラ受け入れ •個人の負荷分散
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> •モラルが高い(企業経由の紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> •ボラ出身ベースの多様化 (大企業中心) •継続活動
協賛企業・団体	<ul style="list-style-type: none"> •信用力(大企業の協力) •安定資金 •豊富な人材供給源 •ノウハウ、サービス •積極的な協力 	<ul style="list-style-type: none"> •協力ベースの拡大 中小企業、企業外(学校、病院)展開 •企業ノウハウの結合、シナジーの活用 •行政への働きかけ

理想

生活力、自立できる環境

(心) 触れ合い、親密な人間関係
 (能力) 教育・技能習得のチャンス
 (社会) 理解者、受容れる社会

ギャップを埋める努力

地域密着度の向上、子どもとの
 交流機会(回数、人数)増加
 KIDSアビリティスクール(就職、進学サポート)
 人々への啓蒙活動(広報)
 行政への働きかけ
 就業の場(受け皿)作り

現状

自立の難しさ

(心) 愛情不足、友人ができない
 (能力) 教育のチャンスがない
 (社会) 偏見・差別、閉鎖性

具体的活動内容(アイデア)

定期訪問の地域密着度向上(頻度/人数/深さ)

- リージョナルPR(地域企業/学校/社協)の強化
- KIDSプロ地域密着度向上の仕組みを織込む

KIDS Ability School構想拡大

- IT/英語/財務/就業訓練
- インターンシップ拡大(Bloomberg, SF.Com等)
- 資格スクールとのアライアンス
- International Project(英語、自立心)
- 長期育成循環(小中高 KIDSスタッフ)

人々への啓蒙活動(広報)

- 広報対象のシフト
 マスコミ 人々(子ども/施設/ボラ/企業/スタッフ)
- 地域・ターゲット見直し、社協・ボラセン活用
- メールマガジンの発行
- 啓蒙Event「KIDSシンポジウム」開催

行政への働きかけ

- 制度・法律の研究・調査 改革の提案
- 行政、他団体(JC、他NPO/NGO等)との協力

就業の場(受け皿)作り

- 企業への働きかけ/働く場(知的、養護)提供

理想

感動・共感、共有の仕組み・場

- 整理された情報、伝達手段
- 仲間、感動の交換の場
- やりがいの発見

基本認識

情報と感動の物語は既にKIDSの中に存在する。
ただ、共有されていないだけ。

具体的活動内容（アイデア）

コンテンツの整理・発信

- プロジェクト広報と全体広報とのリンク
- KIDSアーカイブ（資料、ビデオ、写真）整理

共有メディア作り

- KIDSイントラネット構築
- KIDSメールアドレス発行（会員向け）
- ボランティア・スタッフ交流会 / 事後反省会の実施
- 拠点（たまり場）の設置
- KIDSメールマガジンの発行
- 英語での情報発信力強化
- 啓蒙Event「KIDSシナジウム」開催

ギャップを埋める努力

- コンテンツの整理・発信
- 共有メディア作り
 - 情報共有場所・機会の提供
 - 伝達手段・ルートの再構築

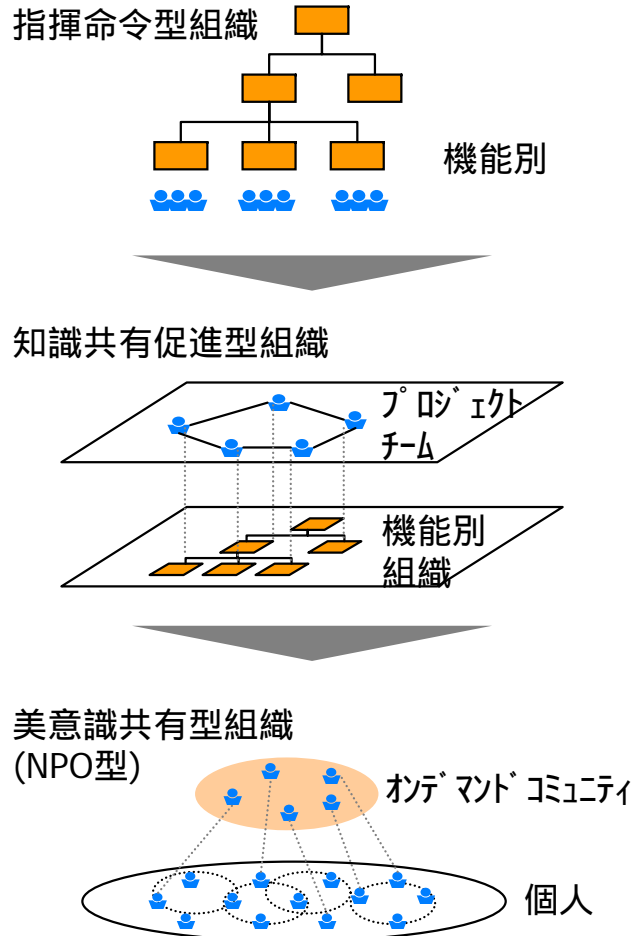
現状

知らない・分からない・続かない

整理情報・伝達手段の不足

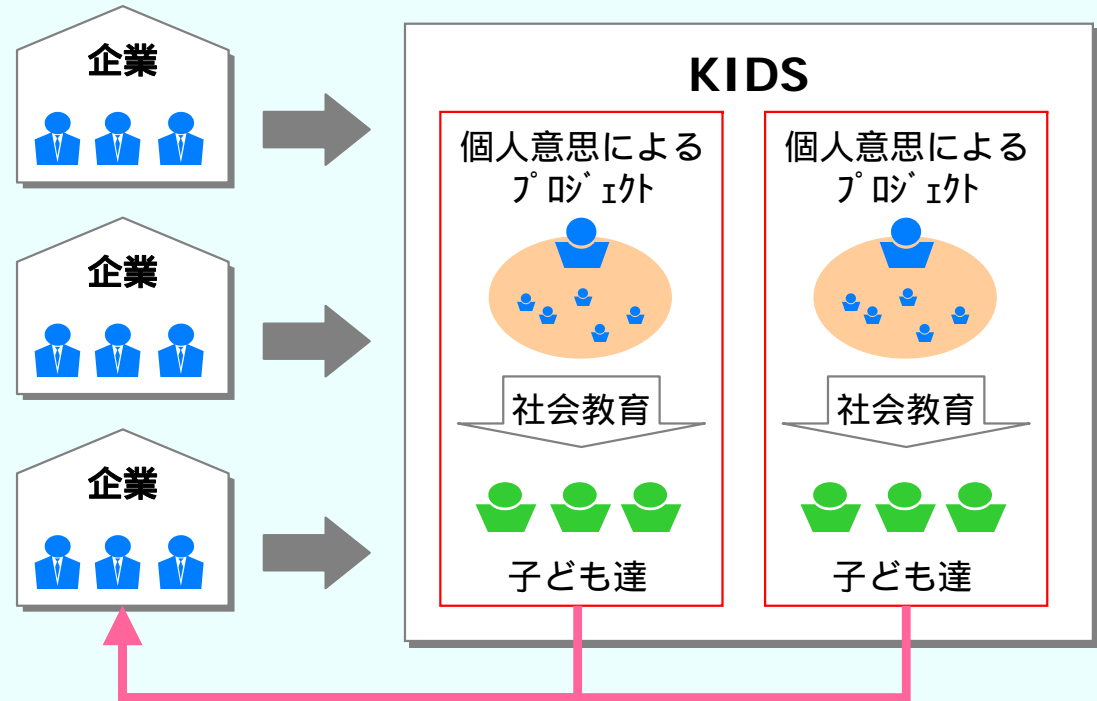
偏見・差別、きっかけ見付らない、
感動共有できず、継続性を維持出来ない

企業に求められる形態進化



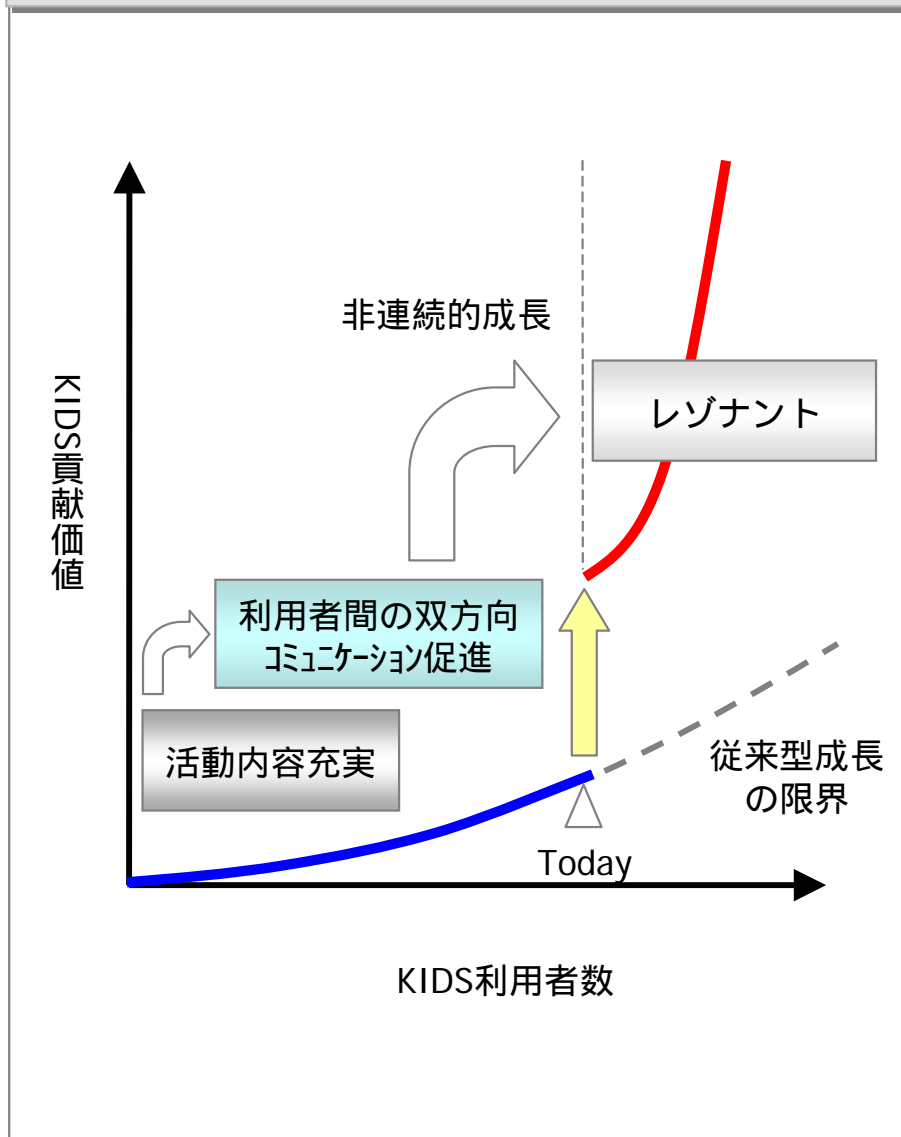
金銭的拘束の中での義務的仕事から
知識、美意識共有による創造的仕事へ

KIDSが提唱する企業とNPOとの新たな協調関係

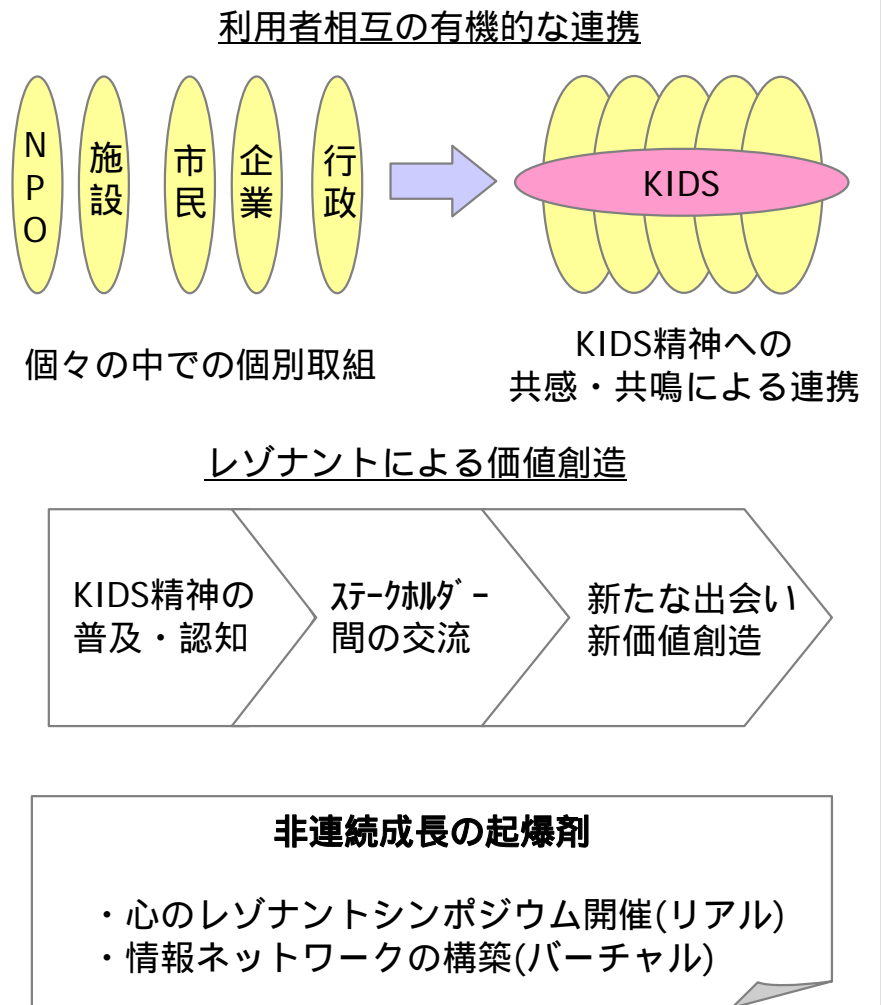


- 企業に働く市民が、企業の枠、金銭的拘束力を離れ、個人の意思・美意識・価値観のみでプロジェクトを立上げ・実施することで、真のリーダーシップを育成（達成感が鍵）
- 心と心のレゾナント（共鳴）により精神的成長を達成した子ども達が、社会へ巣立つことで、循環型社会を形成

延長線上に無い大きな飛躍・質的変容に向けて



レゾナント（共鳴・響き合い）による連携



・ 団体概要

- 名称: 特定非営利活動法人「キッズ」
- 設立: 1992年2月 (NPO認可1999年9月7日)
- 代表者: 丹野幸敏
- オフィス: 〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-17-2-202
- TEL/FAX: 03-3356-4856 (9時～17時)
- Email: kids_hm@hotmail.com
- ホームページ: <http://www.kids-npo.com/>
- 口座: 東京三菱銀行本店 (普通)6129894 特定非営利活動法人KIDS

・ 主な活動:

- ボランティア・イベントの企画・運営

- ・ KIDSプロジェクト、サマースクール、高校生ボランティア体験、ウォークラリー、植林プロジェクト、ドルフィン等

- 施設定期訪問

- ・ 東京近郊9ヶ所に月1～2回の定期訪問ボランティア(月間延べ10回)

- 企業コラボレーション

- ・ KIDS-GEインターナショナル、Bloomberg/SF.comインターンシップ、KIDSパソコクラブ等

- その他、社会貢献に関するコンサルティング、セミナー講演、広報活動、バザー等

・ 活動参加人数 :

- 約2,000名の子ども達に対し年間延べ約2,000名のボランティアをコーディネート
- 会員約200名、スタッフ50名。ただし、会員以外も活動へ参加可能



KIDSは子どもたちの笑顔のために活動しています